

岐阜県 難聴児支援センターだより

片耳が聞こえにくい子のセミナー in 岐阜大学医学部附属病院

令和7年11月9日

■岐阜大学医学部附属病院 9:30~11:20

講話 テーマ:「一側性難聴について」

講師: 松波総合病院 耳鼻咽喉科医師 小川博史先生

今年度の「片耳が聞こえにくい子のセミナー」は、会場53名、オンライン23名で、会場がいっぱいになる程、多くの方々にご参加いただきました。多くの方は初めての参加でしたが、中には以前にも参加してくださった方もみえました。

小川博史先生の講話では、ご自身の経験を元に一側性難聴の方の困る場面、コミュニケーションのポイントなど、詳しくお話していただきました。また、一側性難聴の最新の医療研究のデータの情報についても教えていただき、学ぶところが多かったです。

交流会では、岐阜大学医学部附属病院耳鼻咽喉科医師で当センターの小原奈津子副センター長が座長として、小川博史先生と会場のお子さんの意見を聞きながら、参加者からのアンケートでの質問などの話題を中心に会を進め、主に小学校4年生~中学校3年生までのお子さんが質問に答えてくれました。

Vol.17

令和8年2月



Q.教室の中がざわざわしたり、騒音がある時に どう対処しているか

- ・我慢している。
- ・1回目は聞き返すが、2回目以降は「聞こえた」と言ってしまう。
- ・書写の時に、先生が歩きながら言った指示が聞き取れず、失敗してしまい、先生から「無視した」と言われて泣いてしまったことがある。
- ・先生に直接聞かないで、班の子に教えてもらっている。

Q.学校以外で困っていること、その対処

- ・声がどこから聞こえるかわからなくて、キョロキョロしたり、出遅れたりすることがある。
- ・公園で話しかけられても気づかず、後で「ごめん」となることがある。
- ・ショッピングモールで困ることが多い。
- ・呼ばれても気づかず、祭りの時なども、困ることがある。
- ・騒がしい時は、静かな場所に移る。
- ・大きな音が怖いので、耳栓を持ち歩いている。

保護者より

- ・手を振ってもキョロキョロしていることがある。
- ・高校生になると自転車通学になるので心配。

小原奈津子先生より

- ・聞こえにくさは目に見えにくくわかりにくい。センターの片耳難聴のリーフレットを学校の先生に渡すと良い。先生の理解が大事。
- ・片耳難聴について、自分が必要だと思う人に伝えると良い。近い人にも相談できる環境が望ましい。センターを活用してもらってもよい。
- ・学校でタブレットを使っているの、それをうまく活用して聞こえにくい部分を視覚でわかると良い。

Q.学校の先生に相談などはできるか

- ・学校に伝えてあるが、担任の先生が知っている感じはなく、配慮はない。
- ・先生に相談することができ、みんなに話すかどうかとも相談して決めている。

Q.片耳難聴についてどんなタイミングで知ったのか

- ・自然に知っている感じだった。
- ・病気で聞こえなくなったので、病院で説明を受けて、自分で理解した。
- ・生まれつきなので、親から聞いて知っていた。

保護者より

- ・物心つく前より、話していた。

Q.学校で片耳難聴のことを友達には伝えているか

- ・いじめられたりするのが心配なので、周りの人には言っていない。
- ・親しい友達には自分から言っている。
- ・言っているが、何度か聞かれる。
- ・先生からクラスの人に説明してもらった。

小川博史先生より

- ・学校では、先生にかかっている部分が大きい。低学年はみんなに言った方がよい。その方がみんなに助けようとなる。中学年以降は難しい場合もあるので、理解のある先生や友達には言った方がよい。自分から言える相手が多い方がよい。
- ・自分の経験で、グループワークの時は辛かった。無視するつもりはないのに、無視する形になってしまった。工夫した方法は、自然な形で「紙に書いてまとめておこう」「みんながまとめて、自分が発表するよ」などの提案をして、音以外の情報を活用したりした。誤解が生まれないように、あらかじめ、先生には言っておくと良い。
- ・自分は高校生の時、自転車通学だった。親は心配したが、自分としてはそうだった、本人がどうしたいかを尊重しつつ、通学路の安全面の確認は大事である。

裏面の写真もご覧ください

参加者の皆様のおかげで、充実したセミナー、交流会になりました。参加者の年長児のお子さんが後日、大学病院受診の際に、「私も話したかった。」と言っていたと聞きました。また、来年度の交流会のもち方も工夫してみたいと思います。



会場がいっぱいになるくらい、大勢の方が参加してくださいました。

小原先生、小川先生、お子さんとの本音トーク!!



研修等がありました



● 当センター アドバイザー 森林言語聴覚士

日にち: 令和7年11月27日 木曜日 恵那総合庁舎

講 話: 「知って欲しい きこえに関わること」

対象者: 東濃地域の小・中・高等学校の
難聴のお子さんに関わる教職員

様子等: 難聴児の支援に関わってみえる園や学校の先生などが7名参加されました。経験談を交え、きこえの特徴などの講話を行いました。情報交流会では、現在の困りごとや将来必要になりそうな支援についてなど、様々な意見交換が行われました。

● 当センター 福井支援員

日にち: 令和7年12月12日 金曜日 カナリヤの家

講 話: 「難聴児の支援について」

対象者: 美濃加茂市内の
児童発達支援事業者・福祉障がい福祉担当者等

様子等: 聴覚障がいの基礎知識に加え、実際に難聴体験や補聴器試聴を通してきこえにくさへの理解を深めていただくことができました。参加者からは「具体的な支援方法を学ぶことができた。明日からの利用者支援に活かしたい。」等の感想がありました。特に、市役所窓口で補装具助成の担当の方からは「初めて補聴器の音を聞き、聞こえ方の特性がよく分かった」「窓口に来られる方の背景を知ることの大切さを実感した」とのことでした。日頃当センターでの相談において、お住まいの市町村とのやり取りに悩みを抱えておられる相談者の方は少なくありません。今回の会議の様に、様々な立場の方々に難聴への理解を深めていただくことが解決の糸口になるのだろうと感じました。貴重な場をご提供いただいたことに、この場を借りて感謝をお伝え申し上げます。



● 当センター 福井支援員

日にち: 令和8年1月29日 木曜日 恵那総合庁舎

講 話: 「岐阜県難聴児支援センターの紹介」

対象者: 東濃地域の聞こえに不安のあるお子さん、その保護者、関係者

様子等: 東濃地区には聴覚に関する療育施設や聾学校、難聴特別支援学級が設置されておらず、所属する園や学校の先生方とご家庭とで、それぞれ手探りの療育、保育、教育が進められている現状があります。そんな中、現年中児の保護者3組が令和9年度就学への不安や悩みを抱えて参加されました。「本来なら聾学校に通いたいところだけど、寄宿舎に入るにはまだ幼く断念せざるを得ない」「これまで築いてきた地域での支援体制が就学により途切れてしまう。不安だ」といった切実な声が聞かれました。現在支援に携わっておられる園や学校の先生方も多数ご参加くださり、その思いを共有していただくことができました。

東濃地区難聴児支援担当者から、「今後も、こうした連携を大切にしながら難聴のあるお子さんの、それぞれの園や学校生活を豊かにする支援を行っていきたい。また、県として支援体制をさらに整えていってもらえるように声をあげ続けたい」といったお話がありました。当センターとしても、飛騨・東濃地区への支援をさらに充実させていきたいと考えております。

● 交通アクセス・病院へのアクセス ●



● 鉄道

【JR】
東海道本線「岐阜駅」で下車
【名古屋鉄道】
名鉄本線「名鉄岐阜駅」で下車

● バス

JR岐阜 名鉄岐阜	岐阜大学・病院線 / 約30分	岐阜大学 病院下車 料金 (400円)
	直行便 清流ライナー / 約25分	
	岐南町線 / 約40分	

発行: 岐阜大学医学部附属病院

〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸1番1
TEL 058-230-6198 FAX 058-230-6199

<https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/origin/gifu-deaf-center/>
E-mail: g_nantyo@t.gifu-u.ac.jp